



学校だより

おやじの会 たてのす会 保護者 地域のみなさま ありがとうございます！

運動会では、地域・保護者の皆さまに大きなご支援をいただきました。特に「おやじの会」の皆さまには、早朝7時からテント設営に取り組んでいただき、圧倒的な行動力で会場づくりを支えてもらいました。その姿は、まさに子どもたちのために力を尽くす“最高の地域の大人たち”そのものでした。また、「たてのす会」の皆さまにも、受付や見守り、運営補助など多方面で温かいご協力をいただき、運動会を安心して進めることができました。地域と保護者の皆さまの力強い支えに、心より感謝申し上げます。

言葉の力

6月22日(月)、中区の小学校10校の代表児童が本校に集まり、「中区よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」が行われました。本校からは6年生の代表児童 齋藤夏帆さんが平和への思いを堂々と語りました。その姿はとても立派で、聞く人の心にまっすぐ届くものでした。原稿をただ読むのではなく、自分の考えを自分の言葉で伝えようとする姿勢が、会場の空気を変えていくのを感じました。言葉には、人の心を動かし、新しい気付きを生み出す力があります。私たちに「平和とは何か」を改めて考えさせてくれる機会となるすばらしい時間でした。

ハイタッチに挑戦！

朝、職員室前の廊下で子どもたちと交わす「おはようございます！」のあいさつ。そのときに、ハイタッチをするのがちょっとした習慣になっています。私が手を出すと、子どもたちは次々にタッチをしてくれます。

中には、ただ届く高さでは満足せず、「もっと高く！」「最高の高さで！」と、ジャンプしないと届かない高さに挑戦する子どもがいます。ランドセルを下ろして、「えいつ」と跳び上がる子もいます。私は、ただ手を少し高く上げるだけなのですが、子どもたちは自然と“挑戦したい高さ”を見付け、ピョンと跳び上がってハイタッチ。あの瞬間の表情は本当に生き生きしています。

子どもたちは、誰かに言われなくても「少し頑張れば届きそう」という目標を自分で見付けると、自然と挑戦する姿勢になります。無理すぎず、簡単すぎず、ちょうど手が届きそうな高さ。その絶妙な“挑戦の幅”が、子どもの心を前向きにし、やってみようという気持ちを引き出してくれるのだと感じます。朝のハイタッチは1秒にも満たない短い時間ですが、子どもたちの「挑戦したい」という気持ちが垣間見える大切なひと時です。

七夕に込められた願い

図書整理ボランティアの皆さまが、図書ホールを七夕飾りで美しく彩っていただきました。笹の葉につけられた短冊を眺めていると、子どもたちが書いた願い事が目に入ります。一つひとつ読んでいくと、そこには子どもらしい夢と、今の生活につながる“等身大の願い”があふれていました。

「水泳がうまくなりますように」「そろばんで だん 10 級になれますように」
「サッカーせんしゅに なれますように」

→日々の学習や習い事の中で、「もっとできるようになりたい」という前向きな気持ちが伝わってきます。

「しょうらい、わにのらくえんを 作れるように」

→心がほっこりしました。子どもたちの世界には、大人が知らない“可能性”がたくさんあるのだと気付かされます。

「みんなが げんきで いますように」「かぞくや じいじ ばあばが いっぱい ながいことができますように」

→自分のことだけでなく、周りの人の幸せを願う気持ちも育っています。優しさが短冊の言葉にそのまま表れています。

「一日、学校の休み時間が 100 時間になりますように」

→こんな願いも、子どもたちの“今が楽しい”という気持ちの表れです。

「たてののみんなが いい子でいられますように」「みんなが すきな本をかりられますように」

→友達や学級のことを思う願いもあり、子どもたちが人とのつながりを大切にしていることが伝わってきます。

短冊に書かれた言葉はどれも短いものですが、その裏には子どもたちの思い、夢、優しさ、そして成長への願いが詰まっています。七夕は、子どもたちの心の中をそっとのぞくことができる、特別な行事なのだと改めて感じました。



